

1. はじめに
と畜検査において未分化胚細胞腫および顆粒膜細胞腫の併発事例を認めたので、症例報告する。
2. 検査対象
・動物名:牛 ・品種:黒毛和種 ・性別:牝 ・月齢:34ヵ月齢
・と畜年月日:平成19年(2007年)2月9日
・と畜場所:近江八幡市と畜場
・行政措置:卵巣に異状を認め、「腫瘍」で卵巣を全部廃棄
3. 生体所見
健康畜でと畜場に搬入され、生体検査では特に異状を認めなかった。
4. 肉眼所見
卵巣の表面が、全体的に赤桃色になり、左右とも小児頭大に腫大していた。
右卵巣の断面は、血液と膿汁が混じたような浸出液が漏出し、臭気が強かった。
実質はゼリー状にもろくなっており、ぐずぐずに碎けやすかった(写真1、2)。

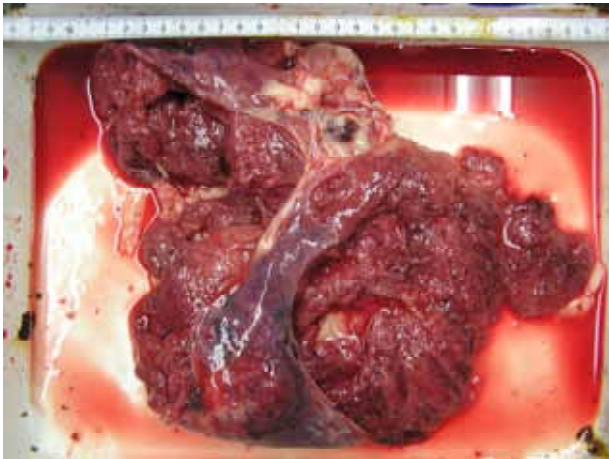


写真1 右卵巣

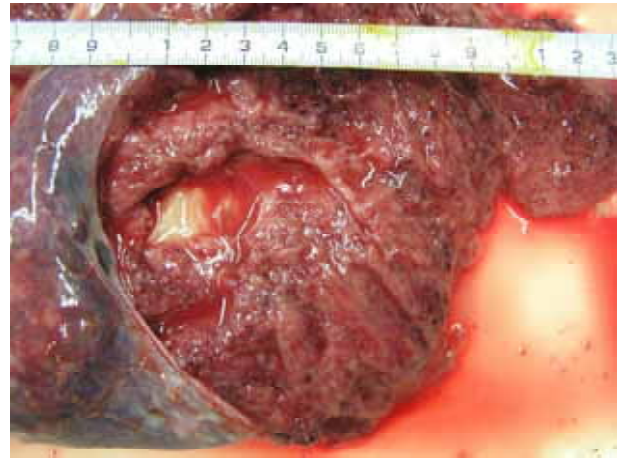


写真2 右卵巣 拡大

右卵巣の一部と思われる部位に手拳大および母指頭大の腫瘍が認められ、その断面に、同心円状の赤褐色斑を認めた(写真3、4)。



写真3 手拳大、母指頭大腫瘍



写真4 腫瘍断面

左卵巣の断面はやや膨隆で、赤色から暗赤色を呈する実質を認めた。
 実質は、リンパ節様部分からゼリー状部分への移行巣を認めた(写真5~7)。



写真5 左卵巣



写真6 左卵巣 拡大1



写真7 左卵巣 拡大2

内臓に子宮が見あたらなかった。癒着して
 所在不明あるいは腫瘤に取り込まれたものと
 推定した。
 その他臓器については、腸間膜周囲脂肪
 に脂肪壊死を認めた。

5. 組織所見

腫瘤は、左右卵巣ともに明確な核仁を複数有する淡明円形核を持つ腫瘍細胞とリンパ球を主体とし、それらの間に存在する細網繊維、血管、フィブリンと血球からなり、脂肪滴を散見する組織(未分化胚細胞腫 写真8、9)と、腫瘍細胞が特異な索状配列を呈し網状に連なって増生し、卵胞構造を模した細胞配列である微小濾胞像(Call-Exner body、カル・エクスネル小体)を認める組織(顆粒膜細胞腫 写真10~12)とから形成されており、両腫瘍は混在していた(写真13)。

また、微小濾胞および腫瘍細胞間質に高度な鬱血を部分的に認めた(写真14)。

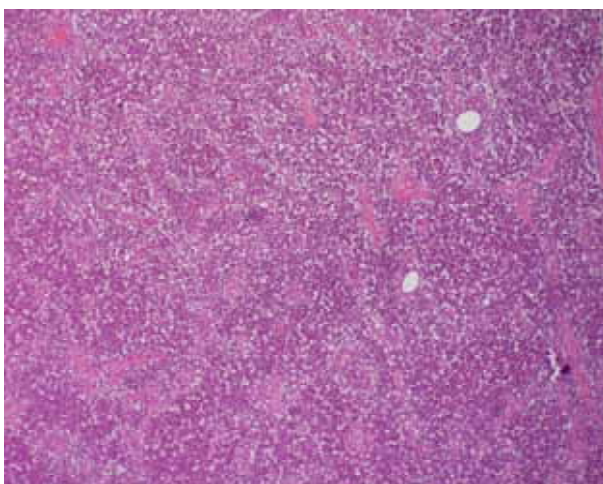


写真8 未分化胚細胞腫 HE × 40

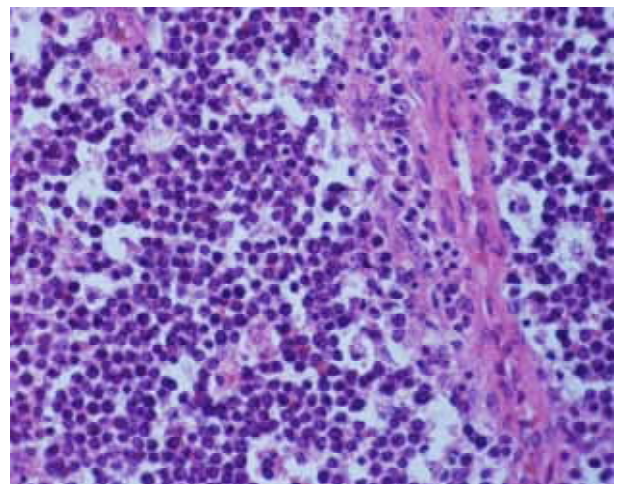


写真9 未分化胚細胞腫 HE × 400

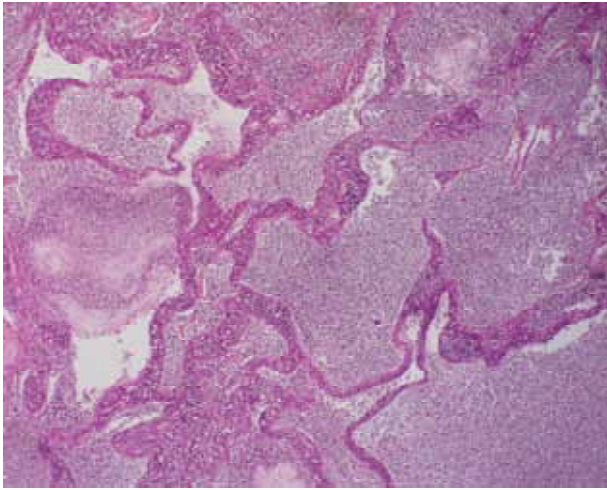


写真 10 顆粒膜細胞腫 HE × 40
Call-Exner body を認める。

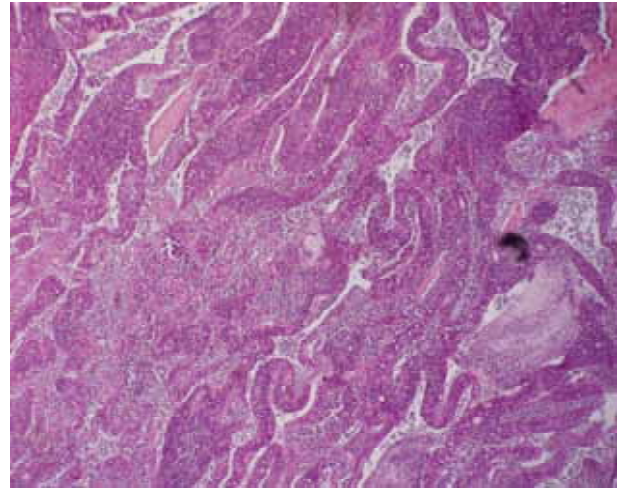


写真 11 顆粒膜細胞腫 HE × 40
Call-Exner body を認める。

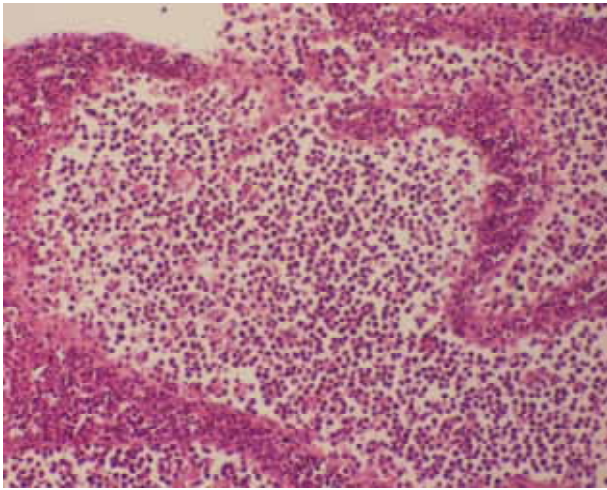


写真 12 Call-Exner body HE × 200

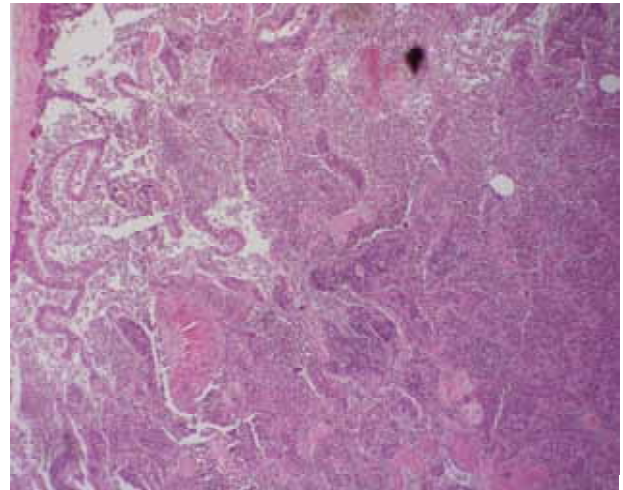


写真 13 未分化胚細胞腫と顆粒膜細胞腫の混在 HE × 40

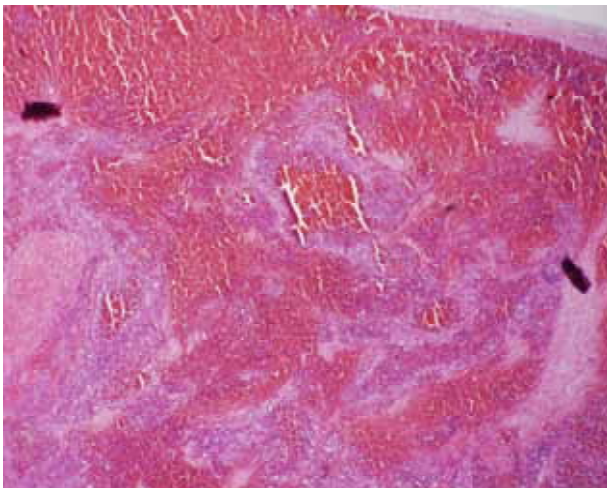


写真 14 腫瘍内の鬱血 HE × 40

6. 診断名

以上の所見から、本症例を「牛の未分化胚細胞腫および顆粒膜細胞腫の併発」と診断した。

診断理由: 未分化胚細胞腫の組織像(写真8、9)と顆粒膜細胞腫の特徴である Call-Exner body(写真10～12)を同部位に混在して認めたため(写真13)。

・参考文献: 「黒毛和種牛の左卵巣に未分化胚細胞腫、右卵巣に顆粒膜細胞腫が見られた1例」芝原 彩、上村俊一 他 鹿児島大学農学部獣医学科家畜臨床繁殖学教室